

「教師力パワーアップセミナー」の現状と課題

Current Situation and Issues of “Kyoshiryoku Power-up Seminar”

長谷川 博 史*
Hiroshi HASEGAWA

要 旨

平成21年より実施している島根大学教育学部「教師力パワーアップセミナー」は、今年度までに第Ⅴ期を終了し、引き続き第Ⅵ期の準備に入っている。宿泊型研修を取り入れ、地域社会・教育委員会・学校現場等との連携を図りながら、総合的な教師力向上をめざし、教員採用試験対策や着任後に向けた実践的な支援活動等を実施してきた。本稿では、これまでの5年間を振り返り、その設立の経緯や目的、実施状況、今後の課題について報告する。

〔キーワード〕 教師力パワーアップセミナー、就職支援、成果と課題

Ⅰ はじめに

平成21年（2009）より実施している島根大学教育学部「教師力パワーアップセミナー」は、1000時間体験学修とは区別されているものであり、これに参加しても学生の卒業に必要な体験時間には認定されない。のみならず、「面接道場」とも異なり、参加・不参加は個人の意志に委ねられている。その意味では、形式上は課外の活動である。

しかし、「教師力パワーアップセミナー」は、1000時間体験学修と密接不可分に関連する試みとしてはじめられた経緯があり、またその目的は学部全体のめざす方向性を体現するものと言える。また本学部においては、今年度からはじまった「教職実践演習」と連動する位置づけを与えられている。以下では、その設置の目的、これまでの実施状況、今後の課題について、報告する。

Ⅱ 設置の目的

「教師力パワーアップセミナー」の構想は、本学部が文部科学省より採択された平成19～21年度特色ある大学教育支援プログラム（いわゆる特色GP）の一環として検討されたことにはじまる。

その目的や経緯については、平成21年度末にまとめられた同特色GP成果報告書（島根大学

*教育学部共生社会教育講座（附属FD戦略センター兼任）

教育学部FD戦略センター2010)にも記されているところである。それによれば、「教師力パワーアップセミナー」の構想と準備過程において議論され、重視されていたことは、「宿泊セミナー型の協同学習による研修プログラム」を実施すること、「地域社会の人的資源」を教員養成教育に活用すること、学生それぞれの中に確かな「自己評価視点」を醸成し「教師力の格段の向上」をめざすこと、などであった。

このうち、地域社会との協同による学生教育に関しては、本学部の学部教育活動評価委員(いわゆる外部評価委員)やサポートマイスターに協力を依頼し、「教師力パワーアップセミナー」における講師をお願いした。現在も、校長経験者、教育行政担当者、中堅・若手現職教員、新任教員など、多彩な講師をお招きして、学生への助言・指導をお願いしている。また、「教師力の格段の向上」を実現するために、学習の動機づけと学習意欲の向上、自己課題の発見と克服、仲間関係の促進、学部全体の教育の活性化などをめざした。その手がかりとして重視されている「自己評価視点」については、「常に自身の課題と向き合い、それを解決する手立てを見つけ、着実に克服していける能力のことである」としている。

同成果報告書は、第Ⅰ期終了段階に作成されたものであるが、すでに「学生の学習意欲面の開発も含め、学部全体の教育をより活性化させる上で大きな効果があった」「共同の場における学びの姿勢がより柔軟で多様になったことで、大学内の教育では得られない大きな成果をあげることができた」との認識が示されている。また、学生のコメントから、着実に力をつけてきたことを読み取っている。

現在の教育学部(平成24年度以降)においては、「教師力パワーアップセミナー」は、附属FD戦略センターの「入試・広報・就職部門」のうちの就職支援担当(教育学部就職支援室)を、実施母体と位置づけている。これは、「教師力パワーアップセミナー」の内容が、教員採用試験対策や採用予定者への具体的な支援により構成されていることによっている。

Ⅲ 実施の経緯と状況

1. 実施状況

「教師力パワーアップセミナー」は、平成25年までに第Ⅰ期～第Ⅴ期が実施されてきた。この5年間の実施状況は、次ページの表に示した通りである。

第Ⅴ期においては、全体で6回実施し、8日間、延べ205名の学生が参加した。

第1回は、平成25年3月7日～8日、出雲市小境町のサン・レイク(島根県立青少年の家)において開催した。また、そのための事前指導を、同年2月14日に実施した。第一日目午前には、教職教養力だめしを実施し、あわせて事前指導時に提示した小論文課題の添削指導を行った。また、同日午後には、自己分析を深めていくためセルフプロデュースカードの作成作業を行い、第二日目午前にかけて自己アピール文の作成を行い、学部教員や4年生による添削指導を行った。また、第一日目夜に、学外講師をまじえ「学校園の現状を聞いてみよう」と題する交流会を開催し、第二日目午後には学外講師・学部教員を面接官役として面接・集団討論の練習を行った。学外講師としては、松江市教育委員会から7名、現職校長5名にご協力いただいた。学生は、3年生44名と2年生2名が参加し、学部教員16名と4年生9名が指導・助言にあたった。

教師力パワーアップセミナー実施状況

期	回	日程	場所	学生	講師※	内容
第Ⅰ期 平成21年 (2009年)	第1回	3月10日 ～11日	サン・レイク	64名	サポートマイスター3名(石倉奈津江氏・園山信夫氏・岡田真理氏)、 現職教員8名、4年生7名	コンセプトマップ作成・ライフ ステージマップ作成・セルフプロ デュースカード作成・ディバ ート・集団討論・交流会
	第2回	3月18日	教育学部棟	44名	講師2名(原広治氏・石倉奈津江氏)	セルフプロデュースカードの検討
	第3回	4月8日	教育学部棟	35名	講師3名(錦織修一氏・園山信夫 氏・石倉奈津江氏)	集団面接
	第4回	4月22日	教育学部棟	46名	講師5名(五明田典子氏・横山康二氏・錦 織修一氏・園山信夫氏・石倉奈津江氏)	自己アピール文作成と個人面接
	第5回	5月13日	教育学部棟	27名	講師6名(五明田典子氏・阿式康 央氏・横山康二氏・錦織修一氏・ 園山信夫氏・石倉奈津江氏)	個人面接
	第6回	6月10日	くになびき メッセ	44名	講師7名(錦織修一氏・石倉奈津 江氏・田中瑩一氏・黒田章義氏・ 中筋弘充氏・有馬毅一郎氏・松原 紀子氏)	集団面接
	第7回	12月12日 ～13日	サン・レイク	31名	講師1名(横山康二氏)、現職教 員7名	講演・模擬授業・交流会・模擬 職員会議
第Ⅱ期 平成22年 (2010年)	第1回	3月9日 ～10日	サン・レイク	85名	サポートマイスター3名(錦織修 一氏・石倉奈津江氏・岡田真理氏)、 現職教員9名、4年生8名	コンセプトマップ作成・ライフ ステージマップ作成・セルフプロ デュースカード作成・ディバ ート・集団討論・交流会・小論文 添削指導
	第2回	4月28日	教育学部棟	70名		集団面接
	第3回	6月2日	教育学部棟	57名		集団面接
	第4回	6月16日	教育学部棟	52名		集団面接
	第5回	6月30日	教育学部棟	53名		集団面接
	第6回	7月7日	くになびき メッセ	83名	講師7名(小島博野氏・竹谷強氏・ 黒田章義氏・中筋弘充氏・有馬毅 一郎氏・阿式康央氏・横山康二氏)	集団面接/集団討論/集団面接 (集団討論を含む)
	第7回	11月20日 ～21日	サン・レイク	22名	講師5名	模擬授業・模擬職員会議・交流 会
第Ⅲ期 平成23年 (2011年)	第1回	3月9日 ～10日	サン・レイク	100名	サポートマイスター4名(石倉奈津江氏・ 岡田真理氏・齋藤英明氏・山中慎嗣氏)、 現職教員10名、4年生5名	教職教養ちからだめし・セルフ プロデュースカード作成・自己 アピール文作成・集団面接/集 団討論・交流会・小論文添削指 導
	第2回	4月27日	教育学部棟	73名		集団面接
	第3回	5月11日	教育学部棟	35名		集団面接
	第4回	6月1日	教育学部棟	43名		集団面接
	第5回	6月15日	教育学部棟	52名		集団面接/集団面接(集団討論 を含む)/集団討論/幼・保/ 初心者
	第6回	6月29日	くになびき メッセ	71名	講師6名(小島博野氏・竹谷強氏・ 黒田章義氏・中筋弘充氏・伊藤由 紀夫氏・瀧野真理子氏)	集団面接/集団討論/集団面接 (集団討論を含む)
	第7回	12月3日 ～4日	教育学部棟	21名	講師1名(阿式康央氏)・現職教 員6名	講演・模擬授業(学級開き)・ 交流会・模擬職員会議・プレゼ ンテーション

期	回	日程	場所	学生	講師※	内容
第Ⅳ期 平成24年 (2012年)	第1回	3月7日 ～8日	サン・レイク	75名	サポートマイスター4名(石倉奈津江氏・岡田真理氏・齋藤英明氏・山中慎嗣氏)、現職教員6名、4年生5名	教職教養ちからだめし・セルフプロデュースカード作成・自己アピール文作成・集団面接/集団討論・交流会・小論文添削指導
	第2回	5月9日	教育学部棟	30名		集団面接
	第3回	5月30日	教育学部棟	28名		集団面接
	第4回	6月13日	教育学部棟	27名		集団面接/集団面接(集団討論を含む)/集団討論
	第5回	6月27日	くにびき メッセ	60名	講師7名(瀧野眞理子氏・小島博野氏・竹谷強氏・黒田章義氏・中筋弘充氏・内田俊夫氏・福田郁子氏)	集団面接/集団面接(集団討論を含む)/集団討論
	第6回	12月1日 ～2日	教育学部棟	19名	講師1名(三島修治氏)・現職教員8名	講演・模擬授業(学級開き)・交流会・課題についてのグループ協議・プレゼンテーション
第Ⅴ期 平成25年 (2013年)	第1回	3月7日 ～8日	サン・レイク	46名	講師11名(古川康徳氏・松本真理氏・小田川俊明氏・山根斉浩氏・梅田英樹氏・山本勉氏・坂根千歳氏・足立賢治氏・黒田誠氏・上代裕一氏・林浩司氏)、4年生9名	一般教養教職教養ちからだめし・セルフプロデュースカード作成・自己アピール文作成・集団面接/集団討論・交流会・小論文添削指導
	第2回	4月24日	教育学部棟	50名		集団面接
	第3回	5月15日	教育学部棟	19名		集団面接
	第4回	6月13日	教育学部棟	19名		集団面接/集団面接(集団討論を含む)/集団討論
	第5回	6月26日	くにびき メッセ	55名	講師7名(黒田章義氏・中筋弘充氏・福田郁子氏・竹谷強氏・瀧野眞理子氏・宮本弘和氏・佐藤友章氏)	集団面接/集団面接(集団討論を含む)/集団討論
	第6回	11月30日 ～12月1日	教育学部棟	16名	講師1名(上代裕一氏)・現職教員7名	講演・模擬授業(学級開き)・交流会・課題についてのグループ協議・プレゼンテーション

※これとは別に、毎回多数の学部教員が運営・添削指導・面接指導等を担当

第2回は、平成25年4月24日、島根大学教養講義室棟・教育学部棟において、集団面接の練習を行った。学生は、教育学部生46名、他学部生4名が参加し、学部教員14名が指導にあたった。

第3回は、平成25年5月15日、島根大学教養講義室棟・教育学部棟において、集団面接の練習を行った。学生は、教育学部生14名、他学部生5名が参加し、学部教員15名が指導にあたった。

第4回は、平成25年6月5日、島根大学教養講義室棟・教育学部棟において、集団面接・集団討論の練習を行った。学生は、教育学部生19名が参加し、学部教員16名が指導にあたった。

第5回は、平成25年6月26日、くにびきメッセにおいて、集団面接・集団討論の練習を行った。学生は、教育学部生52名、他学部生3名が参加し、学外講師7名と学部教員14名が指導にあたった。学外講師は、島根大学教育学部同窓会の推薦により、校長経験者等7名にご協力いただいた。

第6回「未来へ向けて」は、平成25年11月30日～12月1日、島根大学教育学部棟において開催した。第一日目午前は、松江市立湖東中学校の上代裕一校長にご講演いただいた（演題「これからの教師に求めるもの」）。午後には、3グループに分かれて学級開きの模擬授業を行い、学外講師・学部教員が指導・助言した。夜は、学外講師との交流会を実施した。第二日目は教育課題についての協議とプレゼンテーションを行い、学外講師・学部教員が指導・助言した。学外講師については、主幹教諭を含む7名の現職教員にご協力いただいた。学生は、4年生15名、3年生1名が参加し、学部教員14名が指導にあたった。

2. 参加者の動向

第Ⅱ期・第Ⅲ期に比べて、第Ⅳ期第2回以降は、全体の参加者数が減少している。これは、実施母体の責任者（就職支援室長、就職支援主担当）が交替したことによるものであって、必ずしも学生側に問題があるということではない。また、「教師力パワーアップセミナー」が、意欲ある学生による自主的参加で成り立っているという意味では、多ければよいと考えてきているわけでもない。

参加者と教員採用試験合格率との関係は、そのような「教師力パワーアップセミナー」の参加状況や性格をふまえるならば、相関関係を生み出す可能性が高い。この点については、すでに第Ⅱ期までの実績をふまえた分析結果において、「教師力パワーアップセミナー」への参加（受講）と教員採用試験合格との相関関係に関して、「教員採用試験を受験した学生の中で、『受講することによって合格』という結果に対する統計的な優位さが明らか」とであると指摘されている（川路・佐竹，2011）。

現在の主担当者が把握できる第Ⅴ期についても、以下のように、全体的な傾向は共通していると考えられる。

2013年10月末日時点において、ほぼ各都道府県の二次試験結果が出そろっている。現時点において、教員採用試験受験者108人中の34人が合格している（合格率31.5%）が、この数字にはまだ結果の出していない幼稚園希望者は含まれていない。合格率自体は別の観点から検討する必要があり、とりわけ多くの本学学生が希望する島根県・鳥取県の新卒採用数は、今年度も極端に少ない状況が続いており、厳しい数字であることは言うまでもない。

その一方で、パワーアップセミナー参加者（計74名、このうち教育学部4年生は65名）のうち教員採用試験を受験した教育学部生は63名であるが、そのうちの26人が合格している（合格率41.3%）。合格者34名のうち26名が「教師力パワーアップセミナー」に参加した学生ということであり、26名の学生は第1回（合宿研修）か第5回（くにびきメッセ）のいずれかに出席した学生である。

これに対して、パワーアップセミナーには参加していないが、教員採用試験を受験した4年生45名中の8名が合格している（合格率17.8%）。また、パワーアップセミナー第1回・第5回いずれにも不参加で、教員採用試験を受験した4年生46名のうち、8名が合格している（合格率17.4%）。

こうした数字の評価には、慎重な検討が必要であると考えられる。「教師力パワーアップセミナー」は、あくまでも自由意志によるものであり、不参加であってもそれぞれに研鑽を積んでいるから合格できたわけであるし、実施日時が限定されているため不参加にはやむをえない

事情も含まれていると考えられる。また、将来を真剣に考え、志をもった学生は、何にでもチャレンジしようという意欲も高い傾向が強く、参加者が合格する可能性はもともと高いという特徴がある。この点も、第Ⅱ期までの実績に基づき、すでに指摘されている通りである（川路・佐竹2011）。とは言え、2013年10月末時点において、合格者の76.5%がパワーアップセミナーの参加者であること、不参加者合格率に対する参加者合格率が約2.3倍であることは、事実である。

Ⅳ 現状における成果

成果を測るための手がかりは、上記のような現役合格率以外に、卒業後における最終的な合格率、教員就職率などとともに、学生自身がどれだけ課題を認識し、自覚や意欲を高めることにつながっているか、そのことが現場においてどのように生かされているかなど、多面的・多角的に想定しておく必要がある。しかし、そのような追跡を要する悉皆的な調査は、現状ではきわめて困難であり、基準を設定することも容易ではない。ここでは、5年間に学生たちが残したコメントを、いくつかの項目に分けて記すことにより、それに代えたい。

◆不安を取り除く

- ・教職に対する不安が少なくなり、期待が高まりました（第Ⅰ期第1回）
- ・教師になれるのか不安があったが、少しずつ成長していけばよいのだと考え直すことができた（第Ⅳ期第1回）
- ・わからないことだらけで4月から不安な気持ちでいっぱいでしたが、現場で働いておられる先生方と実際に話をすることができて、改めて4月からの自分を考えるきっかけになりました（第Ⅳ期第6回）
- ・今の自分に自信を持って子供達に接していくことも必要なのだという意欲が湧いた（第Ⅳ期第6回）
- ・現職の先生方とお話することができ、教師になったときの不安や今感じていることに対して「分かるよ」といって下さったこと、「私たちと働けることを楽しみにしている」といって下さったことに勇気をもらいました（第Ⅴ期第1回）

◆自分を見つめなおす、自己評価力を鍛える課題を明確化する

- ・ただ漠然と子どもを好きなだけ、楽しく、数学を教えたいなどの気持ちだけでは、教師になれず、何か“これ”といったもの、筋の通ったものがなければいけないということ（第Ⅰ期第1回）
- ・これから自分のために必要な力は何かということ考えることができました（第Ⅰ期第1回）
- ・自分自身についてこんなにも知らないものかと気付いた（第Ⅱ期第1回）
- ・自分の話す力の低さを痛感しています。自分自身の人間性をどれだけ磨いているかが何より大きいと感じ、できる限り自らを高めていこうと思いました（第Ⅱ期第6回）
- ・日頃から課題意識を持ち、その背景や裏にあるものは何なのかということ考える必要がある（第Ⅱ期第6回）
- ・自分の言葉を持つことの大切さに気づかされました。自分をみつめなおす、自分と向かいあ

う、大切な時間となりました（第Ⅳ期第1回）

- ・ “自分”という人間について考えることができた（第Ⅳ期第1回）
- ・ 意味を深く問われても自分の言葉で説明できないことに気付いた（第Ⅳ期第1回）
- ・ 自己分析が少しずつできるようになっているということが収穫でした。また、キャリアの差を肌で感じとれるようになってきました（第Ⅳ期第6回）
- ・ 改めて「子どもの目線で」「子ども理解」ということばの意味に気付かされました（第Ⅴ期第1回）
- ・ 自分の思う良いものと見る側からする良いものとの間に差があることを感じました（第Ⅴ期第1回）
- ・ 具体的に言葉を精選することの難しさを学んだ（第Ⅴ期第1回）
- ・ 話す内容というよりも話す姿勢（気持ち）だ（第Ⅴ期第5回）

◆他専攻・他分野の近い年代との交流・接点の重要性を確認する

- ・ 今まで専攻が違うため、小学校希望の人と話す機会がなかったので、これから皆で意見を交換していこうと思います（第Ⅰ期第1回）
- ・ 違う専攻の同回生がどんな3年間を過ごしてきたかを知ることで「もっと頑張らなきゃ！」というやる気につながったと感じています（第Ⅱ期第1回）
- ・ 同じ夢を追いかける人同士で情報交換できたり、日々の苦労や辛さを分かち合ったり、時に勉強方法を教えあう場としても、私にとって大変役に立ちました（第Ⅱ期第6回）
- ・ 模擬授業等で立派に発表する同級生の姿に私もやる気が湧いてきました（第Ⅲ期第7回）
- ・ 友だちが行う姿を見るのも勉強になった（第Ⅳ期第6回）
- ・ 周りが同じ目標をもって頑張っている姿を見て、教師になりたい願望ともっと勉強しなければいけないという意識がかなり強まりました（第Ⅴ期第1回）

◆意欲を高める、教職の魅力を実感する

- ・ この活動を通して、「人の温かさ」に触れることができ、より一層頑張りたいと思えた。本当にありがとうございました（第Ⅰ期第6回）
- ・ 学校は子ども一人ひとりのことで教師が泣いたり、笑ったり、怒ったりとたくさんの経験ができる、とてもよい場所なんだと先生を見て思いました（第Ⅰ期第7回）
- ・ 教師になりたいという思いだけは負けないと決意した（第Ⅳ期第1回）
- ・ 教員の大変さと楽しさが分かりましたし、何よりこれから頑張ろうと思いました（第Ⅳ期第1回）
- ・ 「もっと書きたい」、「もっと読んでもらいたい」、「もっと時間がほしい」と心から思いました（第Ⅳ期第1回）
- ・ まずは何事も失敗してもいいからやってみよう！という姿勢で臨むことが大切だと実感しました（第Ⅳ期第6回）
- ・ 教員生活に楽しみな気持ちが多くわいてきました（第Ⅳ期第6回）

◆長期的な視点が生まれる

- ・ 特別なことを、特別に意識して取り組むのではなく、地道な努力を積み重ねていくことが大切であると感じた（第Ⅰ期第1回）

- ・情熱を持って専門性、社会性を高めて行きたいと強く思った（第Ⅲ期第7回）
- ・教師になってからは、もっと「一歩前へ」向かう気持ちを持って行動することが必要だと学びました（第Ⅲ期第7回）
- ・目の前の試験のことだけを考えるのではなく、その先の子どもたちと向きあったときのことを考えて、勉強や試験に臨むという言葉が印象に残っています（第Ⅳ期第1回）
- ・“教師になってからこそ始まり”だというふうに思うことができた（第Ⅳ期第6回）
- ・現場に立ったことがないのだから経験がないのは当たり前で、だからこそ今やろうと思っ

◆学校現場を具体的にとらえなおす

- ・教育とは学校の中の事だけではなく社会で起こっている様々な事が関係していることがわかった（第Ⅰ期第1回）
- ・親しみやすさだけでなく、一年間この先生についていかなければいけない子どもたちに安心感を与えられるような出会いを目指して頑張りたいなと思いました（第Ⅰ期第7回）
- ・一人ひとりの子どもを大切に、子どもたちに「こうなってほしい」という思いをもって真剣に向き合うことの大切さを強く感じました（第Ⅰ期第7回）
- ・気になる子の家とは頻繁に連絡を取り、子どもの様子等を保護者に伝えて信頼を得ておくことが大切だということを学んだ（第Ⅳ期第1回）
- ・働き出したら、分からないこと、できないことばかりだが、きちんと他の先生に聞く、自分で考える、アドバイスは実践する、結果を報告する、簡単なようではなかなかできないことを大切にしていきたいと思いました（第Ⅳ期第6回）
- ・先輩教員とのつながりやコミュニケーションの大切さをあらためて感じました（第Ⅳ期第6回）
- ・自分自身オリジナルの特徴を子どもは求めている（第Ⅴ期第5回）
- ・面接の仕方どうこうよりも、教師としてどうあるべきかということを学んだ。それは生徒と「真正面から関わる」ということである（第Ⅴ期第5回）

以上は、学生たちのコメントの一部にすぎないが、現実的な自己の課題をとらえ克服していく契機となっていることが、よくわかる。就職に向けた様々な不安を取り除き、自分を見つめなおし、自己評価視点を身につけ、課題を明確化し、同年代との交流・接点の重要性を知り、意欲を高め、教職の魅力あらためて実感し、長期的な視点をもって、学校現場を具体的にとらえなおしていく。「教師力パワーアップセミナー」が、そのような機会となりえていることを示している。

V おわりに ～今後の課題～

最後に、今後の課題について、学生への支援、外部との連携、教員の意識という3つの側面から、まとめておきたい。

上述のように、「教師力パワーアップセミナー」の趣旨は、学生の自己認識を深めて学習意欲を高め、異分野・異年代との交流をまじえた幅広い視点・認識を獲得し、「教師力」の格段の向上を目的とするものであったので、「教員採用試験対策セミナー」というような名称に置

き換えることはできない。その理念は今でも変わらないと考えられるし、そもそも両者は矛盾もしない。一つの目的の異なる側面を示すものであり、相互に目的と手段の役割を果たすはずのものである。

これまで5年間にわたって実施されてきたことにより、学生からは「教師力パワーアップセミナー」が所与のものとして認識される段階に至ったと言える。現状において、目的についての認識が教員採用試験対策に特化してしまいがちであるのは、実施母体の所在も関連しているが、定着期に特有の課題という側面でもあると考えられる。

その意味では、大学の教育はすべて就職支援対策にも結びついているという認識を、学生と教員が早い段階から共有していくことが、大変重要であると思われる。「教師力パワーアップセミナー」には、もちろん1年次から積み上げていくような構想もあってよいのかもしれないが、それよりも、専門的な学習・探求、講義・演習・実験、1000時間体験学修、面接道場など、異なる形で、また異なる角度から、大学における研鑽の幅を広げる機会の一つとして、早くから学生がそのねらいを認識できるよう努めることが必要と思われる。

就職支援は、就職という目的に即して、考え方や姿勢（心も体も）を確認し、現状の課題を知ってもらうところに出発点がある。ノウハウだけでは、長期的な支援とはならない。構想段階における「教師力パワーアップセミナー」の理念は、意識の高い先頭集団を形成し、全体のレベルを上げることであった。その場合に重要であるのは、社会人として、一人の人間として、次の世代の模範ともなり、よき導きの糸となれる人材を輩出することであり、そのために少しでも多くの方・考え方に接し、学生の手で自身の課題を把握し、改善・克服していくきっかけをつかむ場を用意しておくことである。「まじめに出れば、何とかなる」ということでは決してなく、長期的な内的な成長を促していく場が（重要な一つの）選択肢として用意されていることに、意味があると考えられる。

「教師力パワーアップセミナー」の意義として、もう一つの重要な側面が、外部との連携である。

附属学校園の位置づけの明確化にともない、それとはまた別の側面から広く教育現場と連携していく必要性は高まっている。附属学校園との強力な連携をふまえながら、「教師力パワーアップセミナー」のような学生や教育現場を巻き込むような意識的な取り組みは、本学部にとって不可欠な段階に至っていると言えよう。こうした連携は、本来の意味での就職支援にもつながると考えられる。合否や採用の結果だけが、就職支援の効果を検証する手がかりではなく、10年後、20年後の現場における活躍を、どのように評価し位置づけていくかということが、今後の課題であると思われる。その意味においても、教育委員会や学校・現職教員との「連携」は、不可欠であると言わなければならない。

最後に、本学部教員の意識の問題について触れておきたい。

就職支援主担当として2年近く「教師力パワーアップセミナー」を主催してきた立場からみて、学部教員の意識はきわめて高いと感じられた。FD戦略センター兼任教員には、この取り組みを支えていく強い熱意が感じられ、また他の学部教員からも様々な形で理解と協力を得てきた。開始当初の段階においては、教員の意識改革の問題が強く訴えられていた（鳥根大学教育学部FD戦略センター2010、川路・佐竹2011）が、おそらくはそうした課題意識をふまえた

取り組みの積み重ねにより、それぞれの学部教員が、異なる立場や観点から、現状の課題や克服の手段について思索と認識を深化させてきた結果であると考えられる。

もちろんのことながら、学生の指導・育成の手段や手順については、専門分野の違いにも関わっており、学部教員個々の理念が多様であってしかるべきである。「教師力パワーアップセミナー」は、あくまでも学生にとっての選択肢の一つであればよいと考えられる。その名称についても、具体的な内容についても、現状にこだわる必要はないし、必要に応じて形を変えてゆけばよいと思われる。しかし、選択肢として場が用意されていることの意義は不変であって、「教師力パワーアップセミナー」の基本的な枠組みは、今後も継続していくことが望ましいと考えられる。

参考文献

- 1) 島根大学教育学部FD戦略センター (2010)『平成19・20・21年度 特色ある大学教育支援プログラム〈特色GP成果報告書〉確かな教師力を育む多角的評価の実現－「1000時間体験学修」「学生プロフィールシート」「面接道場」で可視化する教師としての自己成長－』
- 2) 川路澄人・佐竹易子 (2011)「学生の教員採用試験受験動向とその支援について －就職支援室におけるサポート事業を中心に－」『島根大学教育学部紀要』45